



## 讃岐田訓先生の水のお話し

「関西の水を知る 水に学ぶ」

もと神戸大学教授讃岐田訓先生の「関西の水を知る 水に学ぶ」という文章があります。関西よつ葉連絡会のひこばえ通信に2003年掲載されたもので、ユーモアたっぷりにわかりやすく水道のお話が書かれています。

シミ・ジャー通信「さわやか」に掲載をお願いしたところ快く承諾をいただきました。先生は長年、水環境の調査や研究に携わり、講演活動やその著書で環境汚染の現状に警鐘をならしています。

今号では3・4回目のお話を掲載いたします。ぜひ参考にしてください。

### 讃岐田 訓先生プロフィール

市民、研究者らで組織する「瀬戸内海汚染総合調査団(1971)」や「琵琶湖淀川汚染総合調査団(1984)」に参加し、赤潮による養殖魚の大量斃死や水道水による発ガンのメカニズムを解明。

20年目の「琵琶湖調査団(2004)」副団長。2004年3月末に神戸大学発達科学部教授を定年退官後、神戸水環境研究所を開く。

著書「遺伝子を撃つ水道水」北斗出版  
「日本の水環境 近畿編」

日本水環境学会編、技法堂出版

(編集部注)「遺伝子を撃つ水道水」北斗出版には試験水取水や変異原性調査の苦勞、調べ方、発がんのしくみなど専門の方に聞かなければわからないお話がたくさん出ています。

関西の水を知る 水に学ぶ

讃岐田 訓 (神戸水環境研究所)

第3回 自分たちの力で測定を開始

みなさん、こんにちは。今回は「トリハロメタン」というものが、水道水中の発ガン性物質として、ふいに登場しまして失礼しました。そこで、この舌を噛みそつな名前の物質はそもそも何者なのか、今回はひとつ、そのところをお話したいと思います。

この発ガン性物質は、長年、水商売を営んできたわれわれの業界では、最も要注意の危険物質なのであります。

時は1974年、アメリカのニューヨーク市での出来事です。この都市では、ミシシッピ川の水で水道水をつくり、市民に給水していたのですが、井戸水を利用していても人も少くありませんでした。そこで、反公害市民団体である米国環境防衛基金の水質部長、ロバート・ハリス博士が、市内でのガン死者について、水道水を飲んでいたら人と、井戸水を飲んでいたら人に仕分けしたところ、水道水を飲んでいたらの方が、ガン死者数が多いこと、それも泌尿器系と消化器系のガンに多いことを突き止めました。この手法を疫学調査というのですが、ハリスのこの発表(これは後に、ハリスレポートと称され、全世界に発信された)に米環境保護庁(EPA)はつよい衝撃を受け、ただちに市の浄水場で原因究明に取りました。ここがわが国の厚生労働省や環境省と違うところで、原因はまもなく解明されました。浄水場では、取水した水を最初に塩素で消毒します。このとき

に生成していたもので、ことに濃度が高かったのがトリハロメタンと総称される有機塩素化合物で、4種類が検出され、そのうち群を抜いて高濃度であったものがクロロホルムでした。市民には教えられない、と水道当局

クロロホルムのこと、これまでに聞いたことありませんか。そう、麻酔剤として全世界で使われていました。ところが、発ガン性が非常に強いことがわかり、当時もいまも、麻酔には一切使われておりません。その毒物が浄水過程で生成し、水道水に混入していたのです。

この恐ろしい事実が判明したことで、アメリカでは飲み水の安全性論争が繰り広げられ、1979年、0.1ppm以下とする許容基準が暫定的に定められました。

この一連の推移をわれわれ市民が知ったのは、1980年、当時、阪大工学部助手であった山田国廣氏(現、京都精華大教授)が京都新聞に発表したときでした。すごい驚きでした。ところが、さらに驚いたことに、厚生省(旧)や水道関係者はこの情報を当初から知っており、1974年からすでに調査をはじめていたのです。

これらのことを隠していた行政側の言い分は、「そんなこと市民に教えるとはパニックが起きる」というものでした。また、各地の市民は近畿周辺各市の水道当局者に対して、トリハロメタンの測定値を教えてくださいという要求しました。しかし、「法律で検査項目になっていないので、仮に測定していたとしても、市民には教えられない」というのです。やむなく、われわれ市民は、自分たちの力で測定を開始することにしました。